

# EDELWEISS

## 祈りの春

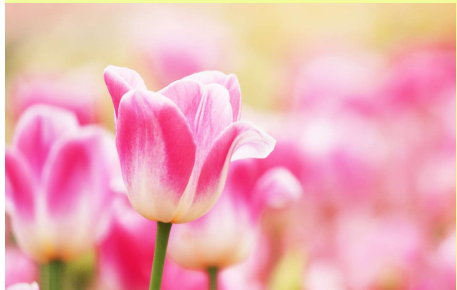
春めいて来るとなんとなく心がウキウキして来ますね。そんな人間の自然な心理に影を覚える春を、私達は何度迎えたでしょうか・・・。去年も一昨年もコロナ規制で我慢を強いられながら大切な人の身を案じ、11年前は震災と原発事故が春の歓びを消し去りました。そして今年は私達スイスに住む者にとって地続きの戦争。花が咲けばウクライナの悲劇とのギャップに胸を痛め、寒さが逆戻りすると、暖もとれない地域の見知らぬ人等が凍えないか不安になる・・・。皆さんもそんな毎日ではないでしょうか。

小麦や火を表すという黄色と、空や水を表すと言われる青のウクライナ国旗は、いずれにせよ、春の爽やかな気分ピッタリの色ですね。建物をこの2色にライトアップして連帯感を示す試みは、エッフェル塔、東京都庁舎など様々なところで見られましたが、チューリッヒ歌劇場の照明を初めて見た時も、多くの人間の祈りを感じました。3月11日にいち早くチャリティコンサートを開催した当歌劇場では、総額18万スイスフランを短期間で集め、赤十字に寄付したそうです。トーンハレ管弦楽団が3月23日の定期演奏会をチャリティコンサートにすると発表したのは、歌劇場がそのチャリティコンサートを発表した3月4日よりも早かったのです。SRF放送でも「これだけ短期間で多額の義援金が集まったのは福島原発事故以来」と、強調していました。

今年は3月11日の後に、またもや福島沖を震源とする地震が起こりました。それがまた大地震を引き起こさないように、など、全てただ祈るしかないのでしょうか・・・。(SN)



## Gebet für den Frieden



**巻頭文** ● 「スイス・大国の狭間で生き残る知恵  
独立心と危機感が育んだ強(したた)かさ」 青砥 玄  
**私のイチオシ、シェアします!** ● 「スイスの旧市街 - Murten」 N. B.  
**ホイツァメ** 言葉に寄り添う居場所探し Vol.7 ●  
「スイス・ラップの30年」 長坂 道子  
**美のプリズム Vol.16** ● 「ジョージア・オキーフの眼」 柿沼 万里江  
**Kette (会員の輪) Vol.157** ● 青山 早耶香 さん

# スイス・大国の狭間で生き残る知恵 独立心と危機感が育んだ強(したた)かさ

巻頭文 青砥 玄(会長)

ご縁とは面白いもので、日本政府や企業に対して提言をされているDBIC(デジタルビジネスイノベーションセンター)というNPO団体からインタビューの依頼を受けました。DBICは「日本のソーシャルイノベーションを推進するプラットフォームモデルを創出する」ことをミッションに掲げる団体です。スイスのローザンヌにある有名なビジネススクールIMDの統計調査によると、1989年から5年間にわたり、日本は、国際競争力ランキングでトップの座を占めていました。ところが、2020年には34位、2021年は31位という悲惨な現状です。そうした日本の著しい国際競争力の低下を憂える有志の方々が集い、日本復興の道を探るべくこのNPOは設立されたとのこと。その試みには、私も大いに共感いたしましたので今回のインタビューをお受けしました。

今回の提言内容は、前出のビジネススクールIMDの協力を得て、国際競争力が毎年トップに位置する国々、SSN(Small Smart Nations)からその秘密を学びながら、日本の国家戦略・企業戦略を構築しようという企画です。それ等の国々というのがスイス、スウェーデン、デンマーク、シンガポールです。これらの在日大使館の協力を得てインタビューを纏めておられます。そんな中で唯一の日本人としてインタビューを受け、「企業人から見たSSNsの秘密」スイスのしたたかさについて、私の思うところを1時間半にわたり語りました。その内容を以下ご紹介しながら、日本復興の方策を探ってゆきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

## (DBIC) 会社の概要と特徴をお聞きたい。

(青砥) Emil Frey AGは創立97年の老舗で、主にトヨタ車を手掛ける従業員2万人の欧州最大の自動車輸入販売総代理店だ。未上場の大企業で、古き良き日本企業のような家族経営を行っている。お客様、販売会社、そして社員との信頼を築いてきたのが、発展の基礎にあると思う。

## スイスは世界競争力でトップとなりました。スイス企業についてその秘密はどこにあると思いますか。

個々の企業努力によるものというより、国柄だと思う。人口850万の小国で、四方を大国(仏独伊英)に囲まれ、いつ占領されるか分からない危機感がある。その中で自分たちのアイデンティティを保持し、生き残る術を必死で考えてきた民族だ。その結果だと言うほかはない。

## 生き残りを賭けた必死さとは。

そういう国民性の元で言語能力を武器にした。公用語が4つある(義務教育で学ぶ英語を入れると5つ)、つまり言語能力が周囲の国との交渉に重要、同時に周囲の国々の動静も窺うという認識と姿勢がある。彼らはあまり自己主張しない。相手の出方を窺い、最後は交渉で良い結果を獲る。EUに加盟せず、交渉で良いと取りが出来る。スイス人を一言で言い表すなら「強(したた)かさ」だろう。

## そのような中でもしっかり社員が長期休暇を取れる。それが出来る理由は何でしょうか。

個人の生活、家庭が一番大切という、ワークライフバランスが基本にある。会社が長期休暇の取得を奨励したり、法的規制で休暇消化も監査される。それが競争力や生産性に深く寄与していることはあるかも知れない。この部分は、日本との歴史的、宗教的な勤労観の違いが背景にあるので、簡単に比較や真似ができない部分かもしれない。



地方自治が発達した国でもありますね。

地方分権が限りなく進んだ国。市民が直接的に意思決定する機会がある。背景には小国ということもあるが、長年独立心を築き、危機感を醸成してきた歴史がある。

## こうした独立心や危機感は、企業の幹部教育にも影響を与えていますか。

スイスは資格社会。教育を受け資格を取らないと重要なポジションにたてない。あと仕事の権限移譲も特徴。細かいことは言わないが、実績が求められる。

## スイスでの教育、転職事情はいかがですか。

大学に入るのは楽だが、学ばないと落第する。簡単に転学できたり、大学で学び直せたりするのも特徴だ。転職は若者の間ではキャリアアップで当たり前に行われている。採用でも企業は実績や資格、学んできたことも見る。あと産学協同が密接なこと。連邦政府もイノベーションセンターを各地域に展開するなど、国家戦略に結びついている。

## 日本企業に対して何かメッセージを頂けますか。

日本は技術で世界をリードできる国。政府が基礎研究、技術開発、そして研究者や技術者の育成にもっと投資するべき。同時に、今その結果がどんどん盗まれているのも事実。産業スパイやスパイを防止する法律を作って資産を守ることが必要だ。



## インタビューを終えて 西野弘(DBIC共同創業者)

今回の一連のインタビューでは、唯一の日本人。海外ローカルな企業に長く務められたご経験を持つ。インタビューでは、スイスのいくつかの特徴を明快にご説明頂くことが出来た。個人個人のワークライフバランスが最重要、それを実現するための政府・企業の施策と明確である。また、小さな国家でありながら4か国語の言語を持つ国や企業の運営はダイバーシティも必要なことであり、それが国際社会での生き方の強さでもあるのだろう。また、大学やその他の高等教育機関では、学生は大変勉強することや産学連携が盛んに行われているということも耳に残った。

\*\*\*\*\*

今回のインタビューを通して、多少なりとも日本企業のお役に立つことが出来れば幸いと思っております。インタビューでは弊社のことをいろいろと質問されましたので、かなり踏み込んでお話ししました。しかしながら、私の上司であるEmil FreyグループCEOは弊社の基本方針を「社員は家族」をモットーとし、「我々は物を作っている会社ではなく販売会社。ゆえに私達の会社を宣伝するのではなく、販売させていただいている車のブランドを宣伝して欲しい」といつも語っています。正に黒子に徹するという姿勢は極めて日本的だなあと感じています。また続けて「お客様は我々の会社の大小を見ているのではなく、目の前の販売員を見ている。その社員が喜んでいなければお客様を喜ばせることは出来ません」ともいいます。私もこの会社で10年以上になりますが、驚くことは本当に社員を信頼し、大切に扱っている会社なのです。実はこの点こそ、会社発展の秘密だと感じています。そういった経営方針を貫き通せるのも、家族経営で未上場だから可能なのです。そういった企業がスイスには数多くあります。その同じ点がDBICの示す新しいビジョンの重要な部分ともなっています。「中期経営計画の最優先アジェンダは“売上と利益”でなく、“社員の幸福度”を上げることを基準に考えるべきである」「企業経営の最大の資産は人財である点を再認識すべき」「経営モデルを“社員の幸福”から考える“社員ファースト”モデルに転換する」などが提案されています。まさに古き良き日本企業の姿(三方よし)の精神や渋沢栄一の教えなどではなかったのかと思いました。この提言を通して多くの日本企業がその輝きを取り戻し、日本復興につながることを心より願ってやみません。

\*DBIC Vision Paper 2はオンライン登録により無料で入手可能です。  
<https://info.dbic.jp/dbic-vision-paper-2>

◆ご意見・ご質問は青砥まで。Gen.Aoto@toyota.ch



小さな街のこじんまりした旧市街を訪れたくて、フライブルグ州のMurtenへ2泊3日で出かけました。

Murtenはフライブルグ州の東の端。ベルン州とヴォー州に挟まれており、その周辺も州の境界線が入り組んでいたりと、フライブルグ州の中にベルン州の土地(飛び地)があったり。また、Murtenから電車で10分もしないとところにローマ遺跡があったりと、歴史を探ってみたくなる、なかなか興味深い土地です。

Murtenの旧市街は、1476年の大火で木造家屋は焼け落ちましたが、その後石造りで再建され、今の街並みになったようです。城壁も城壁塔も昔ながらに残っていて、そのまま映画の撮影に使えそう。

もともとツェーリングゲン公爵によって設立されたので、小さいながらもベルンの旧市街とよく似た作りになっており、アーケードや地下ケラーに降りられる扉など、同じように作られています。



さて、Murtenはドイツ語圏ですが、地理的にフランス語圏との境に位置しており、Sバーンに乗っていてもドイツ語・フランス語両方での案内、また、街の中でもフ



STADT, BERG ODER INSEL?  
私のイチオシ、シェアします!

## スイスの旧市街 - Murten N.B

フランス語が飛び交っていて、違う街にきたのだな・・・と実感します。

違いを感じた1つは、賑わっているカフェ(パン・ケーキ屋さん)がありましたが、その看板の隅に「Mit Alkohol」とわざわざ書いてあったことです。

フランス語圏の知人も言っていました、「朝も10時になると、テラスで座る人たちのテーブルには、コーヒーカップではなく、ワイングラスが並んでいる・・・。皆、どこでも飲んでいる・・・。」と・・・。その現場、しっかりと目にしました!!!

私が泊まったホテルは、旧市街に二つあるホテルの一つ。

バーが地階にありますが、朝食を出す場所でなく素泊まりです。でも、すぐ近くにカフェもレストランもあるので、旧市街を楽しむのに適しています。

2020年に改装オープンされたようで、水回りもきれいでシンプル・イズ・ベストなホテル。

しかし昔ながらの建物を使用しているだけに、ホテル内の上下を結ぶ階段は昔そのまま。歴史を身近に感じました。

そして、そのホテルのバーでは、もちろん地元のワインやビールが飲めます。これは旅の大きな楽しみの一つ!!!

ビールを飲んだのですが、出てきたグラスが変わった形のグラス。レストランやカフェ

の店先でのテーブル上でもよく見かけました。この辺りではこういうグラスが普通なのだろうか・・・。旅の雰囲気盛り上げてくれます。



旧市街には高級店はありませんが個性豊かなお店がいくつかあり、小さい街ながらウィンドーショッピングも面白そうです。飲食店もスイス、イタリアンを中心に、インド、中東、日本食・中華と幅広い選択肢がありました。



歴史的建物の中にながら、お店を覗き、疲れたらカフェやバーでグラスを傾け、携えた本を読みつつ、ゆっくり過ごせる街でした。

## 大使館からのお知らせ

### 領事出張サービス

日時：4月23日(土) 10:00-12:00, 13:00-15:00 (実施時間は変更する場合があります)

場所：チューリッヒ日本人学校

申し込み受付：4月7日(木)大使館必着です。

### スイスから日本への入国

3月10日以降、検疫所の宿泊施設で3日間の待機はなくなります。「出国前72時間以内の陰性証明書」「誓約書」「質問票」、「各種アプリの登録」は、これまでどおり求められますが【入国後の待機期間】【公共交通機関の使用】など、多数変更になっています。

ご利用になる前に必ずHPで詳細をご確認ください。

## チューリッヒ日本人学校補習校

幼・小・中・高 教員・代替教員随時募集  
履歴書をお送りください

- ・スイスで国語学習に励んでいる子どもたちに、経験を生かして貢献したいと思われている方
- ・コミュニケーションを大切にし、協働できる方
- ・毎週土曜日2～4時間の国語の授業
- ・教員免許のある方(どの教科でも構いません)
- ・塾で教えた経験のある方
- ・労働許可証がある方に限ります

### 問合せ先

Japanese Schule (Hoshuko)  
TEL 044-941-1554  
電話での問合せ：土曜日  
E-mail hoshukoz@hotmail.com  
HP www.jszurich.ch

ブラームスの「愛の歌ワルツ集」という曲を練習していたある日、スイス人の合唱仲間の一人がボソッと、「難しいよね、この歌。歌詞も私たちにとったらまるで外国語だし」。

そういうものなのか、と私はちょっと驚き、でも、それ、私に言われてもなあ、と面食らった。そして唐突に、スイスドイツ語で歌われるラップのことを思った。

子供たちの送り迎えがまだ日常の一部だった数年前まで、彼らを助手席に乗せた車内では、ラジオチャンネルはすぐにENERGYに変えられ、自分一人なら絶対聞かないような音楽をたくさん耳にしていた。そんな中、語りのフロウが命のラップに関しては、ドイツ語よりもスイスドイツ語の方が、自分の耳にはなぜかずっとクールに聞こえると感じたことを思い出したのだ。

そもそもこのラップというジャンル、ロックやソウルと同様、英語圏発祥。ヨーロッパのラッパーたちも、最初は英語で歌っていたが、次第にフランス語で歌うラッパー、ドイツ語で歌うラッパーなどが登場するようになってきたのが80年代末から90年代初頭。その頃、たまたまパリを訪れていたバーゼル出身のスイス人ラッパー、ブラックタイガーは、フランス語で歌われるラップにライブで出会い、大いにショックを受けた。観客は、単に歌詞の中身を「完璧に理解しているのみならず、声を合わせて斉唱していた。体の動きも歌詞と見事にシンクロしていた」から。

「これだ！」と閃いたブラックタイガーは、スイスに戻ると、初めてスイス



ドイツ語で書いた歌をヒップホップバンド、P-27からリリース。その名もズバリ「Murder by Dialect」。これがスイスドイツ語のラップミュージックの記念すべき第一号となった。以来、ブラックタイガーといえば、スイスラップのレジェンドと崇められる存在だという。

他のラッパーも後に続いたが、当時は「方言でラップ、それは恥ずかしいことか、またはトレンドなことか」と言った議論が真面目になされるような風潮だったし、スイスドイツ語はもっぱら自虐的なジョークネタとして取り入れられることがまだまだ主流だったと聞けば、隔世の感、著しい。若者が自分たちの方言を「恥ずかしい」「ダサイ」「いくらなんでもラップに使えないっしょ」と思っていた時代があったこと自体、今の感覚からは想像しづらいが、これ、わずか30年前の出来事だ。

時はたち、今ではスイス人ラッパーたち、躊躇も銜もなく、伸びやかにスイスドイツ語、それも、各人の出身地のお国訛りで実に自然に楽しそうに歌っている。スイスドイツ語といっても、州や地域によって随分違うこと、そしてその違いこそが自分のアイデンティティの輪郭を作るのだということを、彼らは高らかに表明している。

それにしても、ブラームスやシューベルトの歌ではあんなに美しく聞こえるハイジャーマンのドイツ語が、ラップとなると、どうも場違いでノリが悪い感じを与えるのは、やはり音韻的な特徴に負っている部分が多いのだろうか。あるいは、19世紀はともかく、21世紀の今、話せもしないくせに、心だけはドイツ語よりもスイスドイツ語により近いところにいるせいで、私にはただ「そう聞こえる」からだろうか。

なんといってもラップはフラストレーションや反抗心、切なさや惨めさをそっくり内包した心の叫びそのものの歌。スイスドイツ語で聞くラップがしっくりくるのは、すなわち、心の叫びの部分でのこの地への共感が自分の中にそれなりに育ってきている、ということなのか。

最近、人気のルツェルン出身、mimixのラップには、なぜか唐突に「日本女性」という単語がなかなかいい感じの発音で出てくるので、ご興味ある方はぜひ、探してみてくださいね。

※**ホイツァメ/Hoi zäme**

(Hallo, zusammen) は、「みなさん、こんにちは」という意味のスイスドイツ語表現



**The Circle at Zurich Airport 見学ツアーに参加して**

建築家の山本理顕氏がスイス最大級の国際コンペで優勝してから12年、2020年に完成したThe Circleを実際に見るのを楽しみにツアーに参加した。このプロジェクトに携わったロイバークカさんと、元同僚のThomas Volstorfさんも同行し20名以上の参加者と共にまずは、4つ星ホテルHyatt Regencyを特別に見学。お部屋の窓から見える空港やくねった道路は未来都市のよう。圧巻だったのはThe Circle Convention Centerだ。この建築全体に統一されている白い細長い窓がモチーフの会議室は台形型の空間が奇抜で面白い。広い空間を3等分に仕切ることができ、すでに国際会議室として活躍中。このホテルは全体的に木の壁やオブジェがたくさんあって落ち着いた雰囲気だった。ポップな感じの3つ星ホテルを見学した後は、外に出て銀色の背の高い小さなケーブルカーで丘の頂上まで登り発着する飛行機を眺める。最後はおしゃれなカフェでお茶をした。ユカさん、実行委員の皆さん、ステキな企画をありがとうございました。MIG

HSK 認定校  
チューリヒ日本語教室

毎週水曜日の午後、チューリヒ市内で、幼稚園年中児から中学3年生が楽しく「継承語としての日本語」を楽しく学んでいます。

**生徒・教員募集中!**  
毎年幼稚園部と小学部1年生クラスに空きがあります。詳しくはホームページで。

www.zurichnihongo.ch  
info@zurichnihongo.ch

『復活を心待ちに・・・  
GINMAKU映画祭』

スイスに居ながらにして、日本映画三昧の贅沢な日々を送ったGINMAKU映画祭。「アフターコロナ」とは行かなくても「ウイズコロナ」で世界が回り始めそうな今春、GINMAKU映画祭に復活の兆しが見えそうです。思い返せば立ち上げた翌年にメイン会場の火災で休止、そして日本でもスイス映画祭を立ち上げた翌年はコロナ禍でまたもや休止。それでも不死鳥の如く、再び舞い上がるために翼を広げているような代表、松原美津紀さんから皆様にメッセージが届きました。またスイスでGINMAKU映画祭が開催される日を心待ちにしましょう！

東京の寒桜が咲き始めた3月初旬、久しぶりに日本映画を劇場で鑑賞する機会に恵まれました。映画館の暗闇に包まれていると、これまで止まっていた時計がそっと動き出すような感覚があり、新型コロナウイルスの影響で2年間中止を余儀なくされたGINMAKU日本映画祭に想いを馳せました。世界が一変した2020年以降、映画祭開催にはどんなリスクがあるのか、どんなシナリオを想定すべきなのか.... 次々とふりかかる「かもしれない」仮定の中で身動きが取れなくなり、大好きな映画と向き合う気力すら失いかけていたように思います。そんな時、ただ自分の気持ちに従い、ふわっと訪れた地で巡り合った人々との会話の中で今後の方向性が決まったり、ずっと仕舞い込んでいた本を開いた時に得た小さな発見に勇気づけられたりしました。これからのことをゆっくりと考え、自分自身に寄り添う時間を与えられたこの

数年間を貴重な機会と捉え、今この瞬間に出来ることをするのみ—— そんな心境になるまで随分と時間を要してしまいましたが、いつもGINMAKUを応援して下さるJapan Club Zurichの皆さまをはじめ、多くの方々に支えていただきながら来年の開催を見据え準備を進めています。2014年の日本・スイス国交150周年の年に開催をスタートしたGINMAKU日本映画祭、そして155周年の2019年に産声を上げたヘルヴェティカ・スイス映画祭の会場にて、皆さまとお会いできますことを心待ちにしています。

GINMAKU日本映画祭  
ヘルヴェティカ・スイス映画祭 代表 松原美津紀  
開催日程決定後に公式HPにて発表予定  
www.ginmaku-festival.com  
www.helvetica-festival.com

JCZ — 数字で見ると？

毎月の会報やイベントで皆様に親しんでいただいている  
当会のミニデータをご紹介します。  
(2022年3月3日現在)

《会員数》

個人会員 257名  
家族会員 77名  
賛助団体 他 15団体  
合計 349名/団体

\* 家族会員は家族単位ですので、実際の人数はこれより多くなります。

《JCZウェブサイト 訪問者数》

最近30日間の訪問者数 1,480名、  
ページビュー数 9,564件

当会ウェブサイト『www.japanswiss.ch』でログイン会員としてご登録いただくと、イベント参加申し込みや過去の会報閲覧など、快適にご利用いただけます。また会報でご紹介している近隣のイベント情報を最新ニュースの欄にリンク付きでご紹介していますので、是非ご利用ください！



第四日曜日 定例ハイキング

2月の雪山ハイキングは、晴れ渡る青空のもと真っ白なグラルナーアルプスの山々を見ながらの行程でした。総勢20名でブラウンバルドを出発。最初はスキー場の中を歩きましたが、途中から雪の一本道を一列になって登りました。最後は雪の中をよじ登るようにして山頂で待望のランチタイム。近くに

ハイキングクラブについて～ 青砥会長より

ハイキングクラブは昨年の春頃、コロナで苦労されている日本人の方々に、スイスの美しい山々を案内できればと、アルプス出身の家内が提案して、有志を集めたのが始まりです。そこに来られた方々にメールで情報を差し上げています。既に毎回20名前後の方々が参加されます。あまり増えると、冬山では安全上の問題も出るのでは、大きく宣伝はしないようにしています。関心のある方にだけ、メールで次のハイキングの情報をお知らせしています。興味のある方は、Irene Aoto ireneaoto@gmail.com にメールでお問い合わせください。

ミニマターホルン？が見えます。360度広がる雪山の大パノラマにしばし時を忘れました。前日にコースを下見までして下さったイレーネさんのナイスアレンジメントに感謝です。下山後は恒例のビール&お茶タイム。身体も心もすっきりした一日でした。久保田

美  
の  
プリズム  
Vol.16

ジョージア・オキーフの眼

チューリヒ、バーゼル、ベルンにおける最近の展覧会テーマの傾向にみなさんはお気づきだろうか。クンストハウスではヨーコ・オノ(1933-)展、バーゼル美術館ではルイズ・ブルジョワ(1911-2010)とジェニー・ホルツァー(1950-)の二人展、クレー・センターではガブリエレ・ミュンター(1877-1962)展が現在開催されている(展覧会情報は末尾参照)。女性芸術家の個展が花盛りなのは何も今年に限ったことではない。アウグスト・ジャコメッティの娘で、アルベルト、ディエゴ、ブルーノ三兄弟の影に隠れていた夭折の妹オットイリア(1904-1937)の作品を初めて包括的に

取り上げたのは、2020年のクンストハウスであったし、2016年にベルン美術館とクレー・センターの2つの機関を統括するべくニナ・ツィマー(1973-)が館長に就任してからは、ベルンではスイスの他の美術館よりも意識的に多くの女性芸術家の作品を展示してきた。記憶に新しいところでは、ベルン美術館のメレット・オープンハイム(1913-1985)、横井照子(1924-2020)、ミリアム・カーン(1949-)、クレー・センターのアンネマリー・シュヴァルツェンバッハ(1908-1942)、リー・クラズナー(1908-1984)、エテル・アドナン(1925-2021)など枚挙にいとまがない。オットイリア・ジャコメッティとアンネマリー・シュヴァルツェンバッハを除いて、ここで挙げた女性芸術家たちは長寿を全うし、亡くなる直前まで制作に意欲的であったことが共通する。男性画家中心の美術界を生き抜いた彼女たちは強かで逞しい。長い間、彼女たちは、ジョンのパートナーのヨーコであり、カンディンスキーの恋人のミュンターであり、ポロックの妻のクラズナーであり、固有名詞の前に必ず付属先があった。仮に才能のうえでは男性の画家よりも優れていたとしても、「彼らの彼女たち」が枕詞となって紹介されてきたのだ。

フェミニズム美術史の草分け的存在であるリンダ・ノックリン(1931-2017)が「なぜ、偉大な女性芸術家はいなかったのか?」という問題提起をしたのは、1971年のことである。ほぼ男性が牛耳っていた美術関係機関やコレクターらの仲間内、そうした閉じた世界のなかで、女性に対する美術教育や助成支援、あるいはネットワークが不足していたからに過ぎない、それが問題の根源であると、ノックリンは考えていたわけではなかった。そうではなく、美術批評や美術書、美術史の研究書など、メディアを通じて流布されてゆく言説、そして研究者が提起する問題意識をそのまま無批判に受け入れてしまう態度、それこそが、モダニズムの女性画家の存在を、そしてその制作条件がいかなるものであったかという事実を、美術史の記憶から脱落させたのである。つまり、「女性問題」はそもそもあったのですか、いまでもあるのですか?といった無自覚さ、である。

ノックリンの指摘からおおよそ50年の時が経過した。今日ではもはや、ジェンダーへの意識なしに、展覧会が企画されることはまずないであろう(そもそも、美術史を勉強する学生は圧倒的に女性が多いにもかかわらず、大学でも美術館でも男性の発想中心に運営されてきたという大問題がある)。パイエラ美術館で開催中のジョージア・オキーフ(1887-1986)展では、「女性性とエロティシズム」という言説を1920年代に逆手にとり美術市場に躍り出た画家といったオキーフ像など微塵も感じさせない、彼女の「圧倒的な眼」が全作品に貫かれているのを体感できる(会期は5月22日まで)。彼女もまた有名な写真家でギャラリストのアル



《シリーズ1-No.4》1918年  
Städtische Galerie im Lenbachhaus  
und Kunstbau München, Schenkung  
der Georgia O'Keeffe Foundation

フレッド・スティーグリッツ(1864-1946)の20歳以上も若い妻として、彼の被写体としてキャリアの最初は認識されていた。パイエラ美術館では、スティーグリッツが撮影したオキーフの肖像写真も展示されており、そこには二人の対等な関係性が写し出されている。

オキーフは花、葉、ニューメキシコ(彼女が終の棲家としたサンタフェ)の乾いた風景、岩山、空、そして動物の骨などのモチーフに絞って描き続けた。彼女の名前を一躍有名にしたのは画面いっぱいに拡大して描かれた花(花弁や雌しべ)の作品群である。花の中心をあまりにも至近距離から眺めているので、具象的なモチーフを通り越して抽象的なカーテンドレープのような形状が画面に広がる。本人は決して抽象画を目指したわけではないのだが、形状を捉える極めて繊細な感性と、通常の在り方とは異なるものを見ることのできる叡智をそなえた眼によって、本質的なものだけを追求していった。その結果、抽象画を描きはじめた最初期の画家の一人に数えられるようになる。



《チョウセンアサガオ/ 白い花 No.1》  
1932年 Crystal Bridges Museum of  
American Art, Bentonville, Arkansas

しかし作品の発表当時、カーテンドレープの形状を見た男性の批評家や鑑賞者は、直ちに「女性器(大陰唇と小陰唇)」の形状を想起し、超至近距離から「女性器」を見ることはドレープの奥にあるものを覗き見しているような高揚感を与えた。こうして1920年代、オキーフはエロティックな花を描く画家として世界的に有名になり、女性画家による性の「解放」のシンボルとして(男性が常々知りたいたと憧れていた、女性だけが知っているエクスタシーの秘密を開示する)、「フェミニズム」のアートの走りに祭り上げられた。ここで使用される「フェミニズム」という概念も男性にとってのそれであることが分かるだろう。「女性性」のタブー視/神秘化の打破という、女性にとっての女性の解放という意味での「フェミニズム」ではなく、たんに女性性を正々堂々と売りにするという、男性にとっての「フェミニズム」であるということが、「女性性は男性よりも地上に結びついており、情熱的なエクスタシーを伴う痛みを覚え、善悪の彼岸で喜びに溢れて愛を確かめる」とニューヨーク・タイムズの批評家までもが、オキーフの絵を心理分析的に解釈しようとした。オキーフ本人は、男どもが勝手に妄想するのを横目に、「花は見る者の心に様々な連想を呼び起こす」とだけ短くコメントし、彼らの馬鹿げた賛辞を可笑しがった。

彼女が、他の者がなしえないほど、ただただ事物を正確に見抜いたのだ。「花を心底見るためにどれだけの時間を人は使うだろうか。ほとんどの者は見ないのだ。一つ一つの花が私に語りかけてくるもの、それを描いた。そして大きく描いた。そうすることで、私が見ているものを、他の者が見ることができるようになるためである」。ジェンダー論争の震に落ちるなど、愚かなことだ。そんなことは他の人たちに任せておけばいい。ただ単純明快に真実を示すこと。それ以上でもそれ以下でもない、オキーフ本人が一番自覚していた。

彼女が、他の者がなしえないほど、ただただ事物を正確に見抜いたのだ。「花を心底見るためにどれだけの時間を人は使うだろうか。ほとんどの者は見ないのだ。一つ一つの花が私に語りかけてくるもの、それを描いた。そして大きく描いた。そうすることで、私が見ているものを、他の者が見ることができるようになるためである」。ジェンダー論争の震に落ちるなど、愚かなことだ。そんなことは他の人たちに任せておけばいい。ただ単純明快に真実を示すこと。それ以上でもそれ以下でもない、オキーフ本人が一番自覚していた。

柿沼 万里江 (パウル・クレー・センター研究員)  
Zentrum Paul Klee, Monument im Fruchland 3, 3000 Bern

《展覧会情報》

- Gabriele Münter. Pionierin der Moderne  
パウル・クレー・センター、5月8日まで
- Louise Bourgeois x Jenny Holzer: The Violence of Handwriting Across a Page  
バーゼル美術館、5月15日まで
- Yoko Ono: This Room Moves At The Same Speed As The Clouds  
クンストハウス、5月29日まで

## 4月JCZイベント予告

### Kunsthau《ビュールレ・コレクション》ガイドツアー

実業家として成功し、コレクターとしても名を馳せたエミール・ビュールレ。フランス印象派の絵画を中心に中世から近代美術まで網羅した幅広いコレクションには、誰もが一度は耳にしたことのある巨匠の作品が並んでいます。2021年秋、新たな収蔵場所となったKunsthauの新館ツッパフィールド館での展示を、おなじみのパウルクレーセンター研究員の柿沼万里江さんに解説していただきます。

日時：4月27日(水)

10時30分から一時間ほど

集合場所：Kunsthau新館入り口のロビー

定員：20名

参加費：無料(水曜日は入場料無料)

\*4月24日(日)までに、JCZ HPイベント申込フォームより

またはメールでkikaku@japanswiss.chまでお申し込みください。

### ★リマインダー★

#### 年会費お支払いのお願い

当会の活動は、皆様の年会費に支えられています。お支払いがまだの方は、早急に振り込んでいただけますようお願い申し上げます。

〈振込先〉

Zürich Nipponjin Kai, 8008 Zürich

Postkonto 80-9732-0

IBAN: CH 19 0900 0000 8000 9732 0

個人会員 50フラン、家族会員 80フラン、  
商工会・普通会員の方で家族会員ご希望の方 30フラン

### アフタヌーンカフェのお知らせ

コロナ対策の規制も緩和されて、日本に帰国される方、旅行に出かけられる方も多いかと思えます。イースターに続く春休み中ですが、Jelmoliのカフェにいらっしやいませんか。

日時：4月19日(火) 14:00-16:00

場所：チューリッヒJelmoli 3 Fのレストラン

申込：JCZ HPイベント申込フォームより、またはメールでkikaku@japanswiss.chまで

\*大体の参加人数を把握しておきたいので、参加される方は事前にご連絡ください。



## チューリッヒ近郊 イベント情報

### \*ムール貝フライ船

4月の毎金曜日(1、8、15、22、29日) 19時

乗船料金+ムールフライとフライドポテト食べ放題=84Fr.

<https://www.zsg.ch/de/erlebnisschiffe/angebote-erlebnisschiffe/moules-frites-schiff>

ランチ船 4月~10月の毎日曜日 10時半~13時

食べ放題ビュッフェ1人69Fr. (11~14歳49Fr.、5~10歳34Fr.、4歳以下無料)

<https://tportal.toubiz.de/Rapperswil/offer/detail/TDS00020011749897268>

### \*トーンハレ [www.tonhalle-orchester.ch](http://www.tonhalle-orchester.ch)

4月2、3日 パーヴォ・ヤルヴィ(指揮) ドヴォルザーク ヴァイオリン協奏曲  
ジョシュア・ベル(ヴァイオリン)、シベリウス交響曲第2番

5日 シベリウスのみ パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)

7~9日 指揮者アカデミー

11日 チューリッヒ室内管弦楽団 ヴィリ・ツィンマーマン(指揮) アヴィ・ア  
ヴィタル(マンドリン)

<https://meisterinterpret.ch/event/zuercher-kammerorchester-willi-zimmermann-avi-avital300>

16日 バッハ「マタイ受難曲」フィリップ・ヘレヴェッ(指揮) オーケストラコレ  
ギウム・ヴォカレ・ゲント

<http://www.hochuli-konzert.ch>

24日 ヴィルデ・フラング ヴァイオリンリサイタル

27~29日 ロレンツォ・ヴィオッティ(指揮) ブーランク「グローリア」、ラヴェル  
《ダフネとクロエ》

### \*チューリッヒ歌劇場 [www.opernhaus.ch](http://www.opernhaus.ch)

4月3日 Stefan Wirth (1975年生まれ) 作曲《真珠の耳飾りの少女》世界初演  
トーマス・ハンブソン主演 7、9、16、24、29日、5月6、8日

4日 ラ・シンティッラ リッカルド・ミナージ(指揮) コンサート バッハ

5日 ロッシーニ作曲《アルジェのイタリア女》チェチーリア・パルトリ主演  
バレエ《眠れる森の美女》4月10、18、23、28日 = 会員の前田明里さんが  
オーロラの友達役と影役を踊る

ヴェルディ作曲《リゴレット》再演 4月10、13、18、22、27日

4月26日 クリティアン・ゲルハーヘル バリトンリサイタル

4月30日 ワーグナー作曲《ラインの黄金》初日

ジャンドレア・ノセダ新音楽監督待望の《ニーベルングの指環》第一話

### \*Das Zelt

スイス最大のツアーイベント スイスの若い有能なアーティストが集まるアクトバ  
ティックショー

4月8日 20時

<https://www.daszelt.ch/de/programm/pdetail.php?aud=def&show=452>

### \*ルツェルン音楽祭メンデルスゾーン祭 於) KKL ルツェルン

4月8日 メンデルスゾーンとワーグナー

9日 メンデルスゾーンとシューマン

10日 メンデルスゾーンとベルリオーズ

[lucernefestival.ch](http://lucernefestival.ch)

### \*牛乳の日

スイス中で催される牛乳のお祭り

4月9日 9時~17時 Arena Cinemas Sihlcity Kalandplatz Zürich

### \*チューリッヒマラソン 4月10日

<https://www.zuerichmarathon.ch/>

### \*ゼクセロイテン 4月22日~25日

今年はようやく実施できそうですね!

<https://www.sechselaeuten.ch/>

ウクライナのためのチャリティ  
コンサートも開催(9日19時半)

# KETTE

## Vol.157

### 青山 早耶香さん

(チューリッヒ在住)

#### お仕事は？

主婦です。日本では食品の検査を行う仕事をしており、現在は休職中です。日本にいた頃は、ほとんど自炊しない生活だったので、スイスの旬の食材で、早くて美味しい、そして栄養もとれる料理を模索中です。

#### スイスに来るまでのお話

薬剤師として行政の衛生機関で働いていたため、業務内容が新型コロナウイルスの影響を受けました。ピーク時は、食品検査よりも、PCR検査が主な業務となりました。当初は、未知の病原体ウィルスで、自宅待機期間も14日と長く、この検査結果一つで、人々の生活が一変してしまいます。そのことを意識しつつ、検査員総出で業務にとりかかりました。私が出国するときには、2回目ワクチンの接種率も増え、検体の陽性率も下がる傾向にあり、タイミングが良く、スイスへの入国もスムーズでした。また、当時農薬の分析法開発のために使用していた機器が、ヨーロッパで開発されたもので、日本の食品分析の分野では、あまり導入が進んでおらず、良くヨーロッパの文献を参考にしていたので、不思議な縁を感じております。

#### スイス生活は如何ですか？

公共交通機関を快適に感じます。趣味で自転車に乗るのですが、日本の電車で運ぶ際は、自転車を解体し、10Kg程の繊細な機械を不安定な状態で運ぶこととなります。まだ日本にいた頃、スイスにいる夫から、SBBに自転車をそのまま乗せて移動している写真が送られて来たときは、感動し、思わずサークルの同僚に自慢しました。トラムやSBB、日常で利用する交通機関に、大きな荷物を置けるスペースがあるのは、アウトドアが盛んなスイスな

らではの設備なのかな、と感じております。チューリッヒへは昨年の11月から住んでおり、風が心地よく感じられる、春の訪れが楽しみです。

#### ご出身は？どんな所？

埼玉県です。育った町は田んぼに囲まれており、自転車を5分程走らせると、群馬県へ行くことが出来ます。お祭りの屋台では、群馬県名物の焼きまんじゅうが売られるほど、文化も身近にあります。いなりずしが町の名物です。昨年度の大河ドラマの主人公、渋沢栄一の故郷が隣町にあるので、ドラマ内では共感できるシーンもありました。



#### 趣味、今ハマっていること /これを皆さんにおしえてあげたい

今季ハマっているのはスキーです。お気に入りのスキー場を見つけて(Flumserberg)、通っています。チューリッヒ中央駅から90分弱、乗り換えなしで行けます。2月下旬、他に同じような距離で行けるスキー場へ訪れてみましたが、すでに雪が融けており、慌てて迂回し、いつものホームグラウンドで滑りました。コースもたくさんあり、スキー教室もたくさん開かれていますので賑やかです。チューリッヒ近郊なので、日帰りで遅く出て、お昼ごろから夕方まで滑り、夕飯時に帰るといったス

ケジュールでも、たくさん滑った様に感じられ、おすすめです。夫に教えてもらいながら、マイペースに滑っています。まだまだ初心者で、時々スキー板と共に空中分解しますが、助けたり、助けられたいり出来るのも、スキーを続けられる魅力かなと感じております。

#### スイスに来て気付いた不思議？

医療体制が良い意味で不思議。チューリッヒの大学病院へ行く機会があり、そこで驚きの光景が。患者が全然いない。医師も少ない。日本では、私の知る科に限っての話ですが、専門医のいる大学病院では、医師10人態勢で一日1000人を越える患者を診察していました。それに対して、ここチューリッヒでは、その時医師2人態勢で、待合室にいる患者はたった3名程。たまたま行った科に罹る患者がスイスで少ないのか、チューリッヒは人口の三割が国外から来る人で構成されているため、治療は自国で受けているのか、不明なのですが、それにしても患者数が少ない印象を受けます。スイスではホームドクター制をとっており、そこから診療所、病院、さらに、より専門の治療を進めるための大学病院へと患者さんに段階を追って治療を進めますが、日本も大学病院へは診療所等から紹介状を書いてもらって初めてかかる事が出来ます。医療体制は大きく変わらないですね。スイスの医療保険は強制加入で安いものではありませんが、日本も国民皆保険で、会社員の方ですと給料からの天引きで税金をとられます。日本の税金の三分の一は医療費で圧迫されており、スイスと日本で、特段医療に対するお金のかけ方も大きく差があるわけではない印象を受けます。平均寿命も両国ともほぼ変わりません。市民一人ひとりが自分の健康に責任を持って生活している結果なのでしょう。日本も近年、セルフメディケーションに向けての取り組み強化を進めています。元々保健医療政策方面に興味があり、復職後、この不思議な体験を仕事に活かす機会があったらと思っています。期間限定でのスイス生活ではありますが、どうぞ、よろしくお願いします。



#### 編集後記

私達が住むスイスでは、今年は4月17日が復活祭ですね。キリストの復活はキリスト教教義において、誕生日を祝うクリスマスよりも重要だそうですが、日本人には馴染みが薄いですよ。色付けした茹で卵を隠して子供達に探させたり、平和の象徴である鳩を象ったコロンバを食べたり、イースターうさぎなどを飾ったり、それらの風習は未だに「取ってつけたよう」で、意義を見出せずにいました。

東方正教会でも復活大祭は、キリストがアダムとエヴァを地獄から引き上げる最重要祭なんだそうです！ユリウス暦を用いているので今年24日です。「地獄絵図」と表現されているマリウポリ他ウクライナの戦争からも、全ての人を開放しよう！という宗教心が機能したら、それこそが本当の「キリスト復活祭」ですよ！(SN)

#### 広告掲載のご案内

チューリッヒ日本人会 Japan Club Zurichでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

#### 伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

\*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス

2022年4月号

発行責任者: 青砥 玄(会長)

編集: 中 東生、市居 美帆

アーノルド 千津子



\*編集部専用メールアドレス\*  
edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会

JCZ Japan Club Zurich

Office of Honorary Consul

General of Japan

Färberstr. 6, 4F, 8008 Zürich

www.japanswiss.ch

jcز@japanswiss.ch